

# 総合的な学習の時間学習指導案

呉市立両城小学校

日 時 令和元年6月30日(木) 14時00分～14時45分  
学年・学級 第6学年1組 男子10名 女子9名 計19名  
単元名 「両城のまちPR大作戦！」

## 1 単元について

### 本単元の目標

- 両城でまちづくり事業をされている人との出会いにより、地域に対する思いや願い、夢を知ることを通して、探究的な学びに必要な知識や技能を身に付け、課題解決に向けて根拠を示して考えたり表現したりすることができるようにするとともに、まちづくりに対して主体的、協働的に関わろうとする態度を養う。

### 教材観

- 呉市において、平成29年度より「呉市子どもまちづくり事業」が実施されている。三条・両城地区では、呉高専の学生たちと町の人々が協力して、イルミネーションで両城の町並みを表現し、呉に来られた観光客に両城の良さを感じてもらい、両城を訪れるきっかけを作ろうと200階段を飾った。このことを生かして、次年度の平成30年度は、両城小学校の児童とまちづくり推進委員会が協働して、7月の豪雨災害の被災者にイルミネーションを見てもらい、明るく元気になってもらおうと、200階段の「ちびっこ広場」に設置した。  
自分たちが住んでいる町をより良くしようと活動している人たちがいるということを知り、自分たちも町の活性化のためにアイデアを出して、それが実現されるという過程は、児童の意欲的な活動が展開されることが期待できると考える。  
中学校区の教育主題である「自ら進んで学び合い、認め合う児童生徒の育成～『自ら考え表現する授業づくり』と『自信を育む教育活動の授業』を通して～」を本単元で主体的な探究活動に取り組むことで具現化していきたい。

### 児童・生徒観

- 本学級の児童は、呉市が行っている「子どもまちづくり事業」として「三条地区まちづくり推進委員会」の方々と共に、昨年度「両城っ子イルミネーション」のデザインを考え、作成している。その活動を通して、両城・三条のまちづくりに関わる人・もの・ことに気付くことができた。  
児童質問紙によるアンケートでは、「地域の行事に参加しているか」の質問に対して肯定的評価をした児童は86.2%であった。それに対し、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか」では68.6%であった。行事で楽しませてもらうが、自分が企画運営に回って人に楽しんでもらったり、準備や片付けをしたりするなど、行事を支える側の仕事には消極的な姿勢がある。課題発見・解決学習に関しては、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思うか」の質問では95%であった。しかし、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表しているか」は57.9%と県平均、全国平均より低くなっている。相手や目的に応じて、自分の意思が伝わるようにまとめ、適切な方法で発信する力に課題がある。

### 指導観

- 本単元では、地域のため、地域の人のために活動に取り組む人たちと出会い、その人たちが何を考え、どう行動されているかを知ることを通して、自分の考え方、生き方と対比させて考えさせたい。地域の人・もの・ことから気付いたことをもとに課題を設定し、課題を解決する過程で情報の収集や整理・分析、まとめ・表現など探究の過程を大切にす。また、探究の過程で課題の見直しを行い、探究が深まっていくようにする。そのためには、児童の気付きをもとにした課題の設定、地域の方々との継続的な関わりが欠かせない。課題について話し合う、役割を分担する、自分の責任を果たす、話し合ったことを形に表す、学習したことを人に伝えるなどの方法を学ばせることを通して、地域の人の生き方から自分の生き方を考え、主体的に関わる当事者意識をもたせたい。

## 2 本単元で育てようとする資質・能力

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
育成を目指す 資質・能力	(1) 知識・情報	(2) 思考力・判断力・ 表現力	(3) 主体性・積極性
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の方と関わる中で, まちの魅力や地域の方の思いや願いに気付くことができる。</li> <li>○必要な情報を収集し, 比較・分類, 関連付け, 総合等, 探究的な学習のよさを理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○複数の事柄や資料などを比較・分類したり, 関連付けたりして整理・分析することができる。</li> <li>○根拠を明らかにしてまとめ, 適切に表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○探究的な学習に主体的・協働的に取り組むことができる。</li> <li>○互いのよさを生かしながら, 自ら社会に参画しようとする。</li> </ul>
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>○両城のまちのよさや課題及びそれに関わる人々の努力や願いに気付いている。</li> <li>○情報の比較・分類, 関連付け, 総合等, 探究的な学習のよさを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○両城のまちのよさや課題について必要な情報を収集し, 整理・分析している。</li> <li>○考えたことや決めたことを相手や目的に応じて, 自分の意思が伝わるようにまとめ, 適切な方法で発信している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○両城のまちのよさや課題について探究的な学習に主体的・協働的に取り組んでいる。</li> <li>○主体的にまちづくりの活動に関わっていかこうとする態度を身に付けている。</li> </ul>

### 3 単元イメージ

三次（13時間）  
両城のまち PR 大作戦！

#### まとめ・表現

「両城のまちのことをたくさんの人に知ってもらう方法を考えることができた。」  
「これからは、まちづくりについて積極的にかかわっていきたい。」

#### 課題設定（三次）

両城のイルミネーションのことをもっと知ってもらうためには、どうすればよいのだろうか。

#### まとめ・表現

「両城のイルミネーションのことを知ってもらうためには、発信しないといけないな。」

二次（10時間）  
「両城っ子 イルミネーション」のその後をさぐろう！

#### 課題設定（二次）

両城のまちづくり事業は、どのくらい知られているのか。

#### まとめ・表現

「地域には、自分たちのまちをよりよくしようと活動している人々がいるんだなあ。他の地域でもいろいろな事業が展開されているな。」

一次（7時間）  
呉市が行っている子どもまちづくり事業について調べよう

#### 課題設定（一次）

呉市が行っている「子どもまちづくり事業」とはどのようなものなのだろうか。

#### 4 指導計画（全30時間）

次	月	主な学習活動	時数	探究の過程	評価規準 (評価方法)	教科等の関連
一 次	5	<p>○ 昨年度、「三条地区まちづくり推進委員会」の人たちと一緒にイルミネーションのデザインを考え、200 階段に飾り付けた活動を振り返る。</p> <p>○ なぜそのような活動が始まったのかについて知り、呉市が実施している「子どもまちづくり事業」に目を向ける。</p>	1	課題の設定	<p>両城のまちづくりに関わる人々に関心をもっている。</p> <p>(3)(発言・ワークシート)</p>	国語科「町の未来をえがこう」
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>課題設定</b></p> <p>呉市が行っている「子どもまちづくり事業」とはどのようなものなのだろうか。</p> </div> <p>○ まちづくり推進委員会の人たちに聞いたり、呉市のホームページを調べたりして、事業内容について知る。</p>	4	情報の収集	<p>まちづくり事業について必要な情報を収集している。</p> <p>(2)(行動観察・ワークシート)</p>	
		<p>○ 他の地域の活動内容を見て気付いたことを話し合う。どの地域も自分たちのまちをよりよくしようと活動していることに気付く。</p> <p>○ 両城地区にイルミネーションを設置したのは、「観光客に両城・三条のことを知ってもらい、訪れてもらいたい。7月の豪雨災害の被災者にイルミネーションを見てもらい、明るく楽しくなってもらいたい。」からだという理由について考える。</p>	1	整理・分析	<p>集めた情報から共通した思いに気づき、関連付ける技能を身に付けている。</p> <p>(1)(発言・ワークシート)</p> <p>両城地区にイルミネーションを設置した理由について、根拠を明らかにして表現している。</p> <p>(2)(発言・ワークシート)</p>	

<p>二 次</p>	<p>6</p>	<p>○ イルミネーションの設置理由から、次の課題をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>課題設定</b></p> <p>両城のまちづくり事業は、どのくらい知られているのか。</p> </div> <p>○ イルミネーションが本当に町の人や観光客に知られているのか、両城を訪れるきっかけになっているのかについて調べる方法を考える。</p> <p>○ 校内の児童，地域の人，お家の人にアンケートやインタビューで調べる。</p> <p>○ 調べたことを交流し，結果から課題を見つけ，インタビューの対象を広げて考える。</p> <p>○ 呉駅などで街頭インタビューして調べる。</p> <p>○ 調べたことを交流し，結果から課題を見つけるとともに，イルミネーションについてもっとたくさんの人に知ってもらわなければならないことに気付く。</p>	<p>1</p>	<p>課題設定</p>	<p>分析したことから、次の課題を見つけている。(1) (発言・ワークシート)</p> <p>情報収集の仕方について考えている。 (2) (発言・ワークシート)</p>	<p>特別な教科 道徳「桜守 の話」</p>
			<p>2</p>	<p>情報収集</p>	<p>必要な情報を集める技能を身に付けている。(1) (行動観察・ワークシート)</p>	
			<p>2</p>	<p>整理・分析</p>	<p>必要な情報を集める技能を身に付けている。(1) (行動観察・ワークシート)</p>	
			<p>2</p>	<p>情報収集</p>	<p>必要な情報を集める技能を身に付けている。(1) (行動観察・ワークシート)</p>	
			<p>3</p>	<p>整理・分析 まとめ・表 現</p>	<p>集めた情報が伝わるようにまとめたり，発表したりしている。(2) (発言・ワークシート)</p>	

三 次	7	○ 気付いたことをもとに、次の課題をつくる。	1	課題設定	両城のまちのよさや課題に対する探究的な学習に主体的に取り組んでいる。 (3) (行動観察・ワークシート)	社会科「明治の国づくりをすすめた人々」  国語科「将来の夢や生き方について考えよう」			
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>課題設定</b></p> <p>両城のイルミネーションのことをもっと知ってもらうためにはどうすればよいのだろうか。</p> </div>							
		○ もっとたくさんの人にイルミネーションのことを知ってもらうためには、どうすればよいか話し合う。							
		○ 観光客に両城のことを知ってもらうためには、自分たちがまちのことを知る必要があることに気付く。							
		○ 両城のまちのことを知るにはどうすればよいか話し合う。					1	情報収集	情報収集の仕方を身に付けている。 (1) (行動観察・ワークシート)
		○ まちづくり推進委員会の人や地域の人、家族などにまちのすてきな所やもっとよりよくしたいこと、願いや夢などを聞いたり、資料でまちの歴史を調べたりする。					2	情報収集	両城のまちのよさや課題について必要な情報を収集し、整理・分析している。 (2) (行動観察・ワークシート)
		○ 集めた情報をもとに、自分の考えをまとめる。(本時)					1	まとめ・表現	考えたことを相手や目的に応じてまとめ適切な方法で発信している。(2) (行動観察・ワークシート)
○ さらに知りたいことを調べる。	2	情報収集	主体的にまちづくりの活動に関わって						
○ まちの歴史やまちのPRをする方法について考え、PRの仕方には、どんなものがあるのか調べる。	1	情報収集	いこうとする態度を身に付けている。 (3) (発言・ワークシート)						

	○ グループで分担して発信の準備をする。	4	整理・分析	考えたことを相手や目的に応じてまとめ適切な方法で発信している。(2) (行動観察・ワークシート)	
	○ 今後の生活に生かせることや自分にできることを考えて振り返りをする。	1	まとめ・表現	主体的にまちづくりの活動に関わっていかうとする態度を身に付けている。(3) (発言・ワークシート)	

## 5 本時の目標

両城のまちについて集めた情報を整理・分析し、自分の考えをまとめることができる。

## 6 本時の評価規準

	判断基準 (到達基準)
Ⅲ	集めた情報を整理・分析し、両城のまちに対する自分の考えを他者が納得するようにまとめている。
Ⅱ	集めた情報を整理・分析し、両城のまちに対する自分の考えをまとめている。
Ⅰ	自分の考えがもてない。

## 7 本時の展開

過程	学習活動	○指導上の留意点 ☆自己肯定感を高めるための手立て	評価規準 (評価方法)
つかむ	1 本時のめあてを確認する。	○前時までの学習活動をふり返し、本時は、集めた情報をもとに、両城のまちはどんなまちだと自分は思っているのかについて明らかにする学習であることを確認する。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           めあて 両城のまちについて集めた情報を整理して、自分の考えをまとめよう。         </div>		
	2 到達基準を確認する。	○関連付ける思考スキルを使って、考えをまとめることを知らせ、到達基準を確認する。	
考える	3 自分の集めた情報からキーワードを抜き出し、コンセプトマップにまとめる。	○キーワードを紙に置いていき、言葉と言葉をつなげさせる。つないだ線に意味をつけることで関連づけをさせる。	集めた情報を整理・分析し、両城の町に対する自分の考えを他者が納得するようにまとめている。 (2) (行動観察・ワークシート)
	4 コンセプトマップをもとに、友達と意見交流をする。	○抜き出す言葉を悩んでいたたり、どのように言葉と言葉をつないだらいいか迷っていたりする児童に助言をする。 ○図全体を見てまとめの文を書かせる。 ○2人組で意見交流をさせ、分からない点についても質問をさせるようにする。  ☆積極的に話し合いができていた時は、肯定的評価を行う。	
まとめる	5 全体で意見を出し合い、両城のまちがどんなまちだと考えているのか、まとめる。	○両城のまちのよさを多面的・多角的に見つめ、もっと調べてみたいという意欲がもてるようにする。	
	6 ふり返りをする。	○到達基準に照らして、ふり返りをさせる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           まとめ (例) 歴史、自然、人の視点で、すてきなまちだという考えが出てきた。もっと調べて、両城のまちのいいところを見つけたい。         </div>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           ふり返り (例) 集めた情報を、関連付けることで、頭の中が整理でき、考えをまとめることができた。事実にもとづいた考えは、伝える相手を納得させるから大切だ。         </div>			



# 8 成果と課題

## 成果

- 地域の人たちとの交流や資料の分析などを通して、自分たちの住んでいる地域のよさに気づき、自分の考えをまとめ、パンフレットで発信することができた。（知識・情報）
- 課題解決に向けた情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の探究的な学習を繰り返すことで、考えたことや決めたことを、自分の意思が伝わるように表現する力が向上した。（思考力・判断力・表現力）

## 課題

- パンフレットの活用の仕方やまちづくりへの関わり方など、児童が新たな課題を設定し、探究的な学習を主体的に進めていけるよう、学習展開を工夫する必要がある。
- 児童は探究の過程に沿って課題の解決をすることができたが、教師主導の学習展開になりがちであった。今後は、他の課題について児童自身が探究の過程を活用し、見通しをもって課題の解決に迫れるようにしたい。  
(児童が作成したパンフレット)

### 両城の見所 4 選!

#### 歴史が積み重なる 階段住宅

家の上に家が有り、またその上に家が有り、まさに山並みの家。それが両城の階段住宅です。階段住宅は、築城守が御守をたて守りながら城郭の中心にまで建てられていきました。

#### 階段住宅ができた背景

戦国中期以降守りやすくなったこともあり、人口が約40万人に、とても広くてみんなの村に生活も暮らしも広がっていききました。しかし、その時代には山並みの土地が不足していききました。そこで山の斜面をむきむき階段を建てていきました。その土地はここから階段住宅に住んでいる人々、築城の土やその階段ができたことで、山の上の方ほど自然が豊かになり、おみやげや観光客が訪れやすくなりました。



階段住宅には多くの石垣がみられます。これらの石垣は大坂城を築いた石垣と同じ土で築かれており、石垣にある重層構造の石垣がみられています。重層構造は、防犯対策の一環として築かれています。戦国は、石垣の古くは築かれた石垣で、石垣の石垣を築いた人々で築かれたといわれています。両城のまちには、築城の技術が継承されているのです。

#### 思いやりへの階段 200階段

「200階段」という言葉を聞いたことはありますか? 両城にある築城で一番有名な階段です。築城料で上るにはとても大変ですが、上から眺める景色はとてもきれいです。

#### 200階段の歴史

築城の初期のころ、両城地区の小学校は、山の上と山の下の2つに分かれていました。そのために子ども達の通学は、とても大変な状況に陥っていました。そこで、当時の町長が、築城の町長さん、山の上と山の下の小学校の通学路から、山の上の小学校の通学路で築城料を「200」として、それからいろいろな階段を築き、200階段を開通させたのです。

今では、両城小学校の児童は使っていませんが、両城地区に住んでいる人々の生活には欠かせない、大切な階段です。

ちなみに、段数を数えてみると、実際には200段ではなく228段あります。



200階段は、大規模な土木工事にもなっています。築城「築城」の歴史として受け継がれました。階段を上り下りした上からは、両城の町を一望することができます。



#### 魅力的な景観をつくる 赤レンガと石垣

#### 赤レンガと石垣の生み出す景観

赤レンガは、明治時代の築城に多く使われており、当時の築城の歴史を伝える重要な景観です。赤レンガは、築城の歴史を伝える重要な景観です。赤レンガは、築城の歴史を伝える重要な景観です。

#### 赤レンガの様々な積み方

住宅に多く使われる赤レンガの積み方にはいろいろな種類があります。例えば、縦積、長手積、あじろ積、十字積などの積み方があります。様々な積み方があるため、今では赤レンガのレンガ・アートとしても人気です。ぜひ、両城の赤レンガの様々な積み方を体験してください。



#### 昔ながらの手押しポンプ

両城には、昔ながらの手押しポンプがたくさんあります。昔ながらの手押しポンプには、津田式ポンプ、サンタイガーポンプ、コーヨーポンプがあります。津田式ポンプは、築城の歴史を伝える重要な景観です。昔ながらの手押しポンプがたくさんあります。昔ながらの手押しポンプがたくさんあります。

#### まちを救った手押しポンプ

両城のまちには昔ながらの手押しポンプで水を運ぶことができて、多くの人々が生活しています。昔ながらの手押しポンプがたくさんあります。昔ながらの手押しポンプがたくさんあります。



#### 両城のまちへの行き方



(バス)  
駅前で大坂行きのバスに乗って三軒 3丁目バス停で下車。バス停から両城の町へ歩いていきます。徒歩約10分程度です。徒歩約10分程度です。

(徒歩)  
駅前から徒歩約10分程度です。徒歩約10分程度です。